

2020年4月5日受難節第6主日・棕櫚の主日  
銀座教会 家庭礼拝のしおり

礼拝招詞 「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。」

主の祈り 天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。  
御国を来たせたまえ。  
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。  
我らの日用の糧を今日も与えたまえ。  
我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。  
我らを試みにあわせず、悪より救いくださいたまえ。  
国と力と栄えとは、限りなく汝のものなればなり。アーメン。

讃美歌 136 ちしおしたたる

聖書 マタイによる福音書27章45～56節

<sup>45</sup> さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。<sup>46</sup> 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。<sup>47</sup> そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。<sup>48</sup> そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。<sup>49</sup> ほかに人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。<sup>50</sup> しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。<sup>51</sup> そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、<sup>52</sup> 墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。<sup>53</sup> そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。<sup>54</sup> 百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。<sup>55</sup> またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。<sup>56</sup> その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。

牧会祈祷 愛する独り子を世に与えてくださるほどに世を愛して下さった父なる神様、本日、棕櫚の主日・受難週を迎えました。与えられた受難週の1日1日を、私たちが主イエスの十字架のご受難を覚え、また復活の希望を覚えて歩めますように。新型コロナウイルスにより世界は試練と不安の時にありますが、神様がお一人お一人と共にいてくださり、祝福と守りをお与えください。特に病の中にいる方を、様々な試練の中にある方をお守りください。医療従事者を始め、与えられた持ち場で懸命に努めるお一人ひとりをお支えください。私達に上より、あなたの御心を成すための知恵と勇気と希望とをお与えください。私たちの家族・友人・親戚・教会の兄弟姉妹、世界にこの週、主の平和と支えが豊かに在りますように。

(ご自分のご家族・友人についてなど具体的に執り成したい祈祷課題があればお祈りくだ

さい)

聖霊の助けによって、この家庭礼拝の時を祝してください。早く安心して皆が教会に集い礼拝を守れますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

説教・祈祷 「命を語り伝える十字架」

伝道師 藤田由香里

本日の棕櫚の主日より、受難週に入ります。主イエスの私達のためのご受難を覚え、また主イエスの復活による救いの希望を覚え、祈りの内に過ごしましょう。本日の御言葉は、主イエスの十字架上の場面の箇所です。

主イエスが十字架におかかりになって3時間に渡り「闇が全地を」覆いました。地の上にある全てのものが闇に包まれた。光の源である神様の不在の時・神の御子の十字架刑の犠牲の重大さを語ります。光が闇に勝利する直前に、闇が深まったのです。

主イエスの十字架上の言葉は福音書によってさまざまです。マタイ福音書は、マルコ福音書と重なる形で「エリ、エリ、レマ サバクタニ」つまり「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という詩編22編の言葉です。

これは、神様への深い信頼に基づく叫びです。罪なきお方が十字架にお架かりになりました。十字架刑は、当時最も残酷と言われる刑で、さらに律法によれば「木にかけられた者は、神に呪われている」のです。イエス様は、「なぜ私をお見捨てに」と嘆かざるをえない究極の場所を引き受けてくださいました。この場所は、罪びとである私達がいるべき場所でした。

「サバクタニ」は、アラム語の「見捨てる（シャーバク）」という単語ですが、「残される・置いていかれる」という意味もあります。父なる神、命の源から置いていかれ、取り残されてしまった場所・そこが十字架の上でした。主イエスは、絶望とも言える試練の中にも、父なる神様に深く信頼し切っておられます。父に絶大な信頼を寄せています。

「神信頼の嘆き」です。それは、詩編22編の詩編詩人もそうです。

マタイによる福音書27章全体では、詩編22編の歌が3箇所も引用されます。それも、22編の詩歌の順とは逆行する仕方です。

新約聖書の時代における聖書（旧約聖書）を読むユダヤ人たちは、詩編を暗唱しました。神様は、聖書の言葉を「子供たちに繰り返し教え（申命記6：6）」「覚えとして額につけ（申命記6：8）」なさいと言われました。詩編23編を始め、詩編22編を暗唱している人が多くいたと思います。マタイ27章における詩編22編の引用を丁寧に見てみましょう。

1) まず、主イエスを十字架につける兵士たちが、「くじを引いてその服を分け合い（マタイ27：35）」ました。これは、詩編22編18節～19節を想起させます。「骨が数えられる程になったわたしのからだを／彼らはさらしものにして眺め わたしの着物を分け／衣を取ろうとしてくじを引く。」（詩編22：18～19）

2) 次に、祭司長・律法学者・長老たちは、主イエスを罵っていました。「神に頼ってい

るが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。」(マタイ27:43) 詩編22編8~9節に次のようにあります。「8 わたしを見る人は皆、わたしを嘲笑い／唇を突き出し、頭を振る。9 主に頼んで救ってもらおうがよい。主が愛しておられるなら／助けてくださるだろう。」このような罵りの言葉は、荒れ野の誘惑のサタンの態度を思わせます。22編19節、9節が出てきました。そして、主イエスの十字架上の言葉です。

3)「わたしの神よ、わたしの神よ なぜわたしをお見捨てになるのか。(詩編22:2)」主イエスは、嘆きの淵にて、この言葉を大声で叫ばれました。嘆きの頂点の言葉です。このように、マタイの受難の場面では、背後に詩編22編があり、詩の順序と逆に引用されていきます。マタイ福音書の十字架のこの叫びまでの聞いた時、旧約聖書に親しんだ民は、ハッとされたかもしれません。

ではなぜ22編が逆の順に引用されるのでしょうか。その手がかりが、更に戻ることで見えます。22編の1節表題まで戻ると、22編は「賛歌」であることがわかります。この詩は、嘆きだけの歌ではなく、神様を賛美する歌です。22編の最後は、神に助けていただいた者の賛美で閉じられます。神信頼の嘆きは、賛美に変えられ、主を賛美する歌として締めくくられます。嘆きから賛美へ移行する賛歌22編を、マタイ福音書はご受難へのあゆみの場面で引用します。嘆きの歌が逆行して、嘆きの始まりの頂点の叫びでクライマックスを迎える。この逆の順序が、どれほどの深い嘆きの淵まで主が降ってくださったかを伝えるようです。

同時に、表題が賛歌であることを告げるように、22編は、賛歌という表題で始まり、神様への賛美で閉じられる。22編は、神様への賛美で包まれている嘆きの歌です。新約聖書において旧約聖書の1節が引用される時、旧約聖書の箇所の前後や文脈も深く引用に関係することがしばしばあるようです。マタイ福音書の受難の場面で、詩編22編の引用を聞くと、この詩編全体の内容を思い浮かべてお聞きしたいのです。

イエス様が私たちのあらゆる嘆きの頂点を引き受けてくださいました。イエス様が私たちのあらゆる嘆きの頂点を引き受けてくださいました。私たちも、2020年春は新型コロナウイルスによる世界的な大きな試練を経験します。不安や・何が最善な行動であるかのわからなさ・予測できない状況・そこに閉塞感を覚えるかもしれません。しかし、「主のうけぬころみも 主の知らぬかなしみも うつし世に あらじかし(讚美歌532)」です。そして、「主にある御民は 神によりて安し(讚美歌520)」です。私たちは、どのような淵にいても神様に信頼してまっすぐに祈れます。「信仰の創始者であり完成者(ヘブライ人への手紙12:2)」であるイエス様が、あらゆる闇に勝利してくださった方が、父なる神様に深く信頼するお姿を見せてくださいました。

嘆きから賛美に変えられていく詩人の姿を、詩編22編は興味深い語呂合わせで描きます。ヘブライ語の「サーファル(数える・語り伝える)」という動詞に注目します。嘆きの淵にいる詩人は、イスラエル周辺世界でもっとも大きく優れた牧草地とされる「バシャン」の猛牛(22:13)に襲われ、砕かれ、骨が数えられる(サーファル)ほどになってしまいました。「骨が数えられる」という描写は、自分では癒せない痛みを表せると思えます。この詩人は、自分の骨が数えられる(22:18)ほどに砕かれて弱ってしまいました。弱り果てた自分を見つめています。しかし、詩人の目が外へと向けられていきま

す。詩人は、詩のクライマックスでは、主の名を語り伝える（サーファル）（22：23、31）力を与えられています。なぜでしょうか、それは、主なる神様が、救いを求める叫びを聞き届けてくださり、応えてくださったからです。神様は、祈りに答えてくださるのです。祈って、お委ねして、神様の御心に信頼するのです。

詩人は、主の救いを語り伝えていくことを宣言します。「わたしは兄弟たちに御名を語り伝え（サーファル）、集会の中であなたを賛美します。22：23」「主のことを来るべき代に語り伝え（サーファル）成し遂げてくださった恵みの御業を民の末に告げ知らせるでしょう22：31」

このような驚くべき恵みによる変化は、ただ神様のみ力によります。私たちの内側からではなく、神様の側から与えられる祝福と恵みです。

私たちも、主イエスが成し遂げてくださったことを、「地の果て」まで「代々に」語り伝えていきます。詩編詩人は、主から命を受けたとき、自分の内で完結するのではなく、この救いを語り伝えていきます。異邦人である百人隊長たちも、主に仕えていた女たちも、主イエスの十字架のご栄光を見ていました。女たちは復活の主イエスにお会いします。そして、11人の弟子に見て聞いたことを伝えます。そして、11人の弟子たちも復活の主イエスにお会いし、救いを語り伝えていきます。

嘆きの淵から、神様の御力によって立ち上がります。十字架のご受難は、イースターの復活の喜びの賛歌になります。十字架の嘆きから復活の賛歌への変化は、救いの決定的な出来事になりました。私達も復活の命を伝える主の十字架を語り伝えていきましょう。

祈禱 私たちの救い主 主イエス・キリストの父なる神様、試練の中にあっても、喜びのときも、あなたに信頼して歩めますように。主が私たちのために成し遂げてくださった十字架の赦しを深く覚え、感謝と賛美のうちに歩めますように。主に信頼し、各々与えられた持ち場でなすべきことに励めますように。十字架の御苦しみを偲んでくださった主イエスを思いつつ、希望を抱いてイースター主日を迎えますように。

讚美歌 257 じゅうじかのうえに

頌栄 544

祝 禱 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、  
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン

.....  
テモテへの手紙第一 2:1 「そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。<sup>2</sup> 王たちやすべての高官のためにもささげなさい。わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穩で落ち着いた生活を送るためです。<sup>3</sup> これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。<sup>4</sup> 神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」